

令和5年度後期始業式 校長講話

令和5年10月2日（月）

皆さん おはようございます。校長の鴨志田新一です。昨日から10月になりました。本校は、2学期制なので、今日が後期のスタートとなります。今年の夏は、気象観測史上一番暑かった夏でした。9月下旬から少しずつ秋めいてきました。涼しくなると急に体へのダメージも出てきます。睡眠と栄養を心がけて、体調管理をしていきましょう。

さて、先月は常盤祭である文化発表会があり、皆さんの素晴らしいパフォーマンスを見ることができました。

その常盤祭のパンフレットに「青春とは」というメッセージを載せました。見てくれましたか。今日は、その中で、アメリカの詩人のサミュエル・ウルマンの「青春」という詩の一節を紹介いたします。有名な詩なので、知っている人もいるかと思います。

「青春とは人生のある期間をいうのではなく、心の持ち方をいうのだ。

想像力、意志、情熱、勇猛心、冒険心 こういう心の持ち方を青春というのだ。

年を重ねただけでは人は老いない。

理想を失うときに初めて老いがくる」

今の自分自身を振り返ってください。年齢的には皆さんは青春時代といえるでしょう。

でも、理想や情熱、意志がない人は、たとえ10代であつても青春と呼ぶことはできないのです。

電車などに乗っていると、高校生や大学生、若いサラリーマンなどで、スマホに夢中になり、背中を丸めて必死にゲームに打ち込んでいる姿を見ます。なんか遠くから見ると、年相応には見えませんね。

一方では、さいたま市出身の宇宙飛行士の若田光一さん。年齢は還暦の60歳を超えていますが、昨年10月から今年の3月までの期間で、5回目の宇宙飛行を成功させています。

若田さんが、宇宙を語る時、その表情は無邪気な少年のようです。まさに青春そのものです。

こういう人を見ると、自分も勇気がもらえるし、憧れてしまいます。

「人の価値は努力の量で決まる」若田さんのことばです。

還暦が過ぎた今でも、努力し続け、新しいことにチャレンジする。そんな毎を送りたいものです。

個人的な話で申し訳ありませんが、私は趣味でジョギングをしています。ゆっくりと走っていますが、ジョギングをしていると嫌なことや悩みごとを忘れることができます。

聞いた話ですが、うつ病の治療にもジョギングやウォーキングは効果があるそうです。

これまでに多くの大会やレースにも参加し、40回以上フルマラソンを走りました。決して、速くはないのですが、走ることのいいところは、走ることは前にしか進まないことです。

そして、走り続けていると必ず、ゴールにたどり着きます。私は、後ろ振り向くことはしません。

なぜなら、私は誰かと競い合うのではなく、自分と競い合っているからです。

皆さんもそう。周りに勝った、負けたではなく、自分自身に問いかけてください。自分に問いかけ、理想や情熱、意志を持ち続けることが、青春といえるでしょう。

そして、自分で自分を幸せにしてあげましょう。一人ひとりのウェル・ビーイングを実現させていきましょう。

いつまでも、ディズニーランドのイツ・ア・スモールワールドが好きでいる心の持ち方をしたいものです。

私からの話は以上です。